

せとうち発見の道企画展

「竹田喜之助(たけだきのすけ)と人形劇文化

～瀬戸内市に根付いた人形劇～

2019年5月28日～8月25日

今年も8月に「喜之助人形劇フェスタ 2019」が開催されます。30年以上続けられた人形劇のイベントは、竹田喜之助さんという世界的な人形師を生んだ瀬戸内市の文化として定着しました。

市内にはアマチュアの人形劇団がいくつも生まれ、活動を続けてきました。本展では、瀬戸内市で続けられている人形劇の魅力を再発見します。

【喜之助フェスティバル】

世界的な系あやつり人形師である竹田喜之助が1979年に亡くなった後、喜之助の出身地である邑久町の人々と、喜之助の弟子にあたる劇団の関係者などが、喜之助の偉業を顕彰する人形劇のイベントを企画しました。

1988年、邑久町主催で第1回「喜之助フェスティバル」が開催され、その後、毎年夏に行われるようになりました。

2009年からは、市民の有志で構成された「市民実行委員会」が主催するようになり、現在ではイベント名を「喜之助人形劇フェスタ」と変えています。今年は通算で31回目となります。

喜之助人形劇フェスタは、瀬戸内市中央公民館を主会場に、瀬戸内市民図書館の「つどいのへや（喜之助シアター）」も会場となって開催されます。プロ劇団やアマチュアの人形劇団などがさまざまな人形劇を上演します。

フェスティバル開催のたびに、入場券がわりのワッペンや、入場券番号のくじで当たる特製グッズなどがつくられ、フェスティバルを彩りました。また、邑久町の各種記念グッズなどにも喜之助人形や喜之助フェスティバルを題材にしたものが作られました。

【竹田喜之助の仕事】

竹田喜之助は本名を岡本隆郎(おかもと・たかお)といい、大正 12 年(1923)、現在の瀬戸内市邑久町で生まれています。

東京帝国大学工学部航空工学科在籍中、結城孫太郎(後の竹田三之助一座)の糸あやつり人形公演に魅せられ、一座に入座しました。人形のデザインから製作、人形操作、脚本などまでこなし、多方面で才能を発揮しました。喜之助が製作した人形は、その美しさから「喜之助人形」として高く評価されましたが、喜之助は昭和 54 年(1974)に 56 歳で逝去しました。

【竹田人形座】

結城孫太郎一座は、1955 年、竹田人形座となりました。当時は、浄瑠璃や長唄に合わせて人形をあやつる「日高川」「塩原多助」「鈴ヶ森」などの古典ものを演じていました。1956 年、竹田人形座は、東京都の無形文化財に指定されています。

喜之助は、伝統的な人形に改良を加え、兄弟子の扇之助とともに新しい独自の人形を生み出していきました。その後、竹田人形座が演じた人形劇は、「雪ん子」(1957 年)の文部省芸術祭奨励賞受賞をはじめ、高い評価を得ていきます。

テレビ、映画でも多くの作品を上演し、海外公演なども行い、世界にその名を知らしめました。

糸あやつり人形劇団「つきみ草」の上演風景

